

所沢市くらしサポーター 交流会ニュース 2016.6.21

県西NW
西部地区

2016年度
開催
36名参加

6月21日(火)、所沢市民文化センターミュージズにて、第2回所沢市くらしサポーター交流会を開催しました。交流会は今年で2年目になります。当日は雨の降る中でしたが、36名が参加しました。

交流会には初めて所沢市社会福祉協議会、市内地域包括支援センターから複数の包括支援センター職員を招いて交流しました。



今回の交流会は「助け合い」を意識した交流会企画にしました。2015年度の所沢市くらしサポーター活動報告から、くらしサポーターの沢山の活躍の場面があったこと、くらしサポーターを通して、利用者から感謝の手紙が寄せられたことなど紹介。所沢市社会福祉協議会より職員を招いて“ところWITHプラン”(第4次地域福祉活動計画in所沢)と生活支援体制整備事業について学習しました。「今後の地域づくりの参考になった」「初めて聞いた」など参加者から感想がありました。また、「助け合い」をゲームを通して学ぼうとグループで「近隣助け合い体験ゲーム」を行いました。また、サポーター、コーディネーターから実際にサポートにかかわった経験について報告がありました。最後は埼玉西協同病院小暮事務長よりまとめのあいさつをしていただきました。

地域ごとの暮らしコーディネーター、暮らしサポーター、社協職員、地域包括支援センター職員が4つのグループをつくりグループ内に事業所職員も混じり、カードを使ってグループメンバー全員で助け合い体験を以下の手順で行いました。

- ①他人にお願いしたいカードを3つ選ぶ。
- ②選んだカードを手元に伏せておき、1枚選んだ内容をグループメンバーにお願いをする。
- ③メンバーはお願いされたカードを見てお手伝いできる場合は手を挙げて意思表示をして、引き受ける。多数の引き受けが出た場合は話し合い。
- ④双方で確認ができたなら握手する。ほかのメンバーは大きな拍手で共有する。

みなさんの姿は真剣。そしてグループメンバーにお願いしたいカードを出すと、「これならできるけどどう?」「得意分野だね。引き受けますよ!」「じゃあお願いね。」「うれしいわ。」と助け合いの輪が広がりました。



- ・介護保険だけでは、足りないことも増えている中で、くらしサポーターはとても頼りになる存在だと感じます。今後も一緒に連携をとらせていただければと思います。（地域包括支援センター所長）
- ・地域にねざしながら、地域福祉を推進していかなければならず、支え合いが必要と感じました。（くらサポ）
- ・人それぞれお願いしたい内容が違うので、助け合いながら支え合う事の必要性をゲームで楽しみながら学びました。（くらサポ）
- ・自分にできることで、相手が喜んでくれると自分の喜びになることを感じた。（地域包括支援センター職員）
- ・近隣の助け合いが大切と思うが、接点を作ることが大切。（くらサポ）
- ・新たな地域の知り合いができ、協力できればと思った。（くらサポ）
- ・来年度よりはじまる地域事業に向けて、重要な役割となる地域のくらしサポーターの存在がもっと多くの方に周知していただけるように、今後は必要とされる方に紹介していければと思います。（ケアマネージャー）
- ・住みなれた地域で、年をとっても、出来ない事、困りごとが多くなっても生活をしていく。その為にも地域の住民の支えが必要と言う事が、くらしサポーターさんからの話から感じました。（ケアマネージャー）
- ・助けてほしいことも丸投げではなく、話をしている内に「それなら」「一緒なら」・・・と出来る事に繋がったのは参考になります。（ゲームから。くらサポ）
- ・こういった活動をひろげるには、いろんな組織がつながることが必要ですね。地域包括の方々との交流はよかったです。（くらサポ）
- ・地域での助け合いの大切さを再認識しました。（くらサポ）

参加者の声



小暮事務長より
まとめのあいさつ

サポーターをしている方の生の声が聞け、実際の活動がわかり良かったです。病院で困っている方に今後もすすめていきたいと思いました。

（外来看護師）

ボランティアさんが1つのことから色々な事をお願いされていることを聞いたが、実際にゲームを通して、色々なことを依頼して住みやすく生活したいと思っている高齢者は多くいると思った。又草取りなど依頼していても、誰かと話をしたいと思っている人も多くいると実感できた。

（病棟保健師）